

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組について

玉城町教育委員会

玉城町教育委員会では、各校の代表者等で組織する玉城町学力向上推進協議会を設置し、取組の一つとして、町内各校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析しています。そして、各校及び町全体の成果と課題を検証し、教師の授業改善及び児童生徒の学習状況の改善につなげる取組を進めています。まず、各校において、町内統一分析シート等を用いて全国学力・学習状況調査における児童生徒の学力の定着状況を把握し、「強み」と「弱み」を明らかにします。課題が見られた学習内容については、学年の系統性を重視して学校全体で授業改善に取り組むことで、確実な定着を目指しています。今年度も、各校の児童生徒の学力・学習状況について、良好な結果がみられたものを「強み」、課題がみられたものを「弱み」として表し、今後の取組とあわせて以下の通りまとめました。

※「強み」と「弱み」について

## 教科に関する調査

- 「強み」… 平均正答率が特に高かったもの  
全国平均・県平均を大きく上回ったもの
- 「弱み」… 平均正答率が特に低かったもの  
全国平均・県平均を大きく下回ったもの

## 児童生徒質問紙調査

- 「強み」… 肯定的回答をした児童生徒の割合が特に高かったもの  
全国の割合を上回っているもの
- 「弱み」… 肯定的回答をした児童生徒の割合が特に低かったもの  
全国の割合を下回っているもの

## I 調査の概要

- (1) 調査日 令和7年4月17日(木)
- (2) 調査対象 玉城町立小学校第6学年(150名)、玉城中学校第3学年(135名)
- (3) 調査内容 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科) 児童生徒質問紙調査

## 2 教科に関する調査の結果

### (1) 小学校

①国語科 ※囲み線は、問題番号を示しています。

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2四イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3二(2)</span></li> <li>・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3三(1)</span></li> </ul>
有田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2二</span></li> <li>・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3二(1)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3二(2)</span></li> <li>・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3三(2)</span></li> </ul>
外城田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2四イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2三</span></li> <li>・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3三(1)</span></li> </ul>
下外城田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1三(1)</span></li> <li>・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書きあらわし方を工夫すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2二</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3一</span></li> <li>・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3二(2)</span></li> </ul>

#### 学力の定着に向けた取組（一部）

##### 田丸小

- ・読み取りだけでなく、授業の中で、文章を書く機会を増やし、条件付き作文などにも触れさせていく。
- ・国語科のみならず、様々な教科の中で出てくる資料など、どう読むか、またそこから読み取れることを共有したり、まとめたりする時間を確保していく。

##### 有田小

- ・各学年の国語で扱う資料の読み方、扱い方を丁寧におさえ、生活科や社会、理科、総合等で調べ学習をしたときに活用し、資料を読み取る力を育成する。
- ・生活科での植物の観察や社会科・理科でのまとめなどでも、文章をまとめる機会を捉えて、書く練習を積ませる。

外城田小

- ・多様な情報を分類したり、関連付けたりして、話す書く内容を検討する機会を持つ。また、自分の書いた文章を比較したり、条件等を検討したりして、推敲する機会を持つ。
- ・新聞記事の音読、視写、要旨をまとめることを行い、説明的な文章に触れる機会を確保していく。

下外城田小

- ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握することについて、今後の国語の授業で、取り組んでいく。
- ・相手意識を持って文を書いたり（日記の宿題）、話をしたり（家庭での団らん）することで、要約する力が身に付いてくるので、家庭と連携して行っていく。

②算数科 ※囲み線は、問題番号を示しています。

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棒グラフから、項目間の関係を読み取ること 1 (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること 2 (4)</li> <li>・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと 4 (4)</li> </ul>
有田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えること 3 (1)</li> <li>・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと 4 (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること 3 (2)</li> <li>・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと 4 (4)</li> </ul>
外城田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棒グラフから、項目間の関係を読み取ること 1 (1)</li> <li>・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと 4 (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること 2 (1)</li> <li>・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること 3 (2)</li> </ul>
下外城田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の大きさについての理解すること 2 (3)</li> <li>・はかりの目盛りを読むこと 4 (3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台形の意味や性質についての理解すること 2 (3)</li> <li>・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること 4 (2)</li> </ul>

学力の定着に向けた取組（一部）

田丸小

- ・ 図形や分数など、具体物の活用を増やし、視覚的にわかりやすくイメージができる教材の工夫をして、理解を深めさせていく。
- ・ 数直線を自分の力で書き、題意を読み取り書き表し、視覚的に分かりやすくしたうえで立式できるようにする。

有田小

- ・ 分数の学習の初期段階で図や具体物を通して、単位分数の定着をはかるとともに、分数以外でも単位数（10や100、0.01がいくつぶんなど）を使った物の見方をおさえていく。
- ・ 割合の学習時に、「もとの量」＋「増えた量」を視覚的にとらえられるように図や面積モデルを使って学習するようにする。

外城田小

- ・ 図形についての基本的な知識・技能の定着を図る。（Eライブラリ・家庭学習の利用）
- ・ 自分の考え方などを言葉や式を使い、順序立てて説明をしたり、自分の考えの理由を説明したりする機会を確保する。また、文章を図式化して、捉えられるようにする。

下外城田小

- ・ 家庭と連携し、生活体験の中にある算数を見つけてみる。例えば、実際にケーキなどを6等分や8等分する場面などで算数の図形とつながっていることを実感させる。
- ・ 算数の学習では、間違いを消さないことが大切である。間違いを残すことで、どこを間違ったか、何を間違ったか、子どもたちがメタ認知することができる。

③理科 ※囲み線は、問題番号を示しています。

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 (3)</span></li> <li>・ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 (4)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 (2)</span></li> <li>・ 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 (3)カ</span></li> </ul>
有田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘチマの花のつくりや受粉についての知識 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 (1)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 (4)</span></li> <li>・ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 (4)</span></li> </ul>

外 城 田 小	<ul style="list-style-type: none"> <li>顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 (2)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 (2)</span></li> <li>水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 (1)</span></li> </ul>
下 外 城 田 小	<ul style="list-style-type: none"> <li>乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 (4)</span></li> <li>氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 (3) 力</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 (3) ク</span></li> <li>身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 (1)</span></li> </ul>

### 学力の定着に向けた取組（一部）

#### 田丸小

- 予想、結果、考察など、丁寧に実験を進め、考えを書く時間を確保することで、文章を書く力をつけて行く。
- 知識はあるので、文章問題をじっくり読み、知識と知識を結び付けられるような練習問題を複数行う。

#### 有田小

- 磁石・電磁石、乾電池、顕微鏡など、その都度児童に触れさせるとともに、Eライブラリなどを活用して定着をはかる。
- 条件にあった文章が書けるように、実験結果の考察をキーワードなどを用いて書かせるなど工夫する。

#### 外城田小

- 知識の定着を行えるように、Eライブラリ等の利用を行う。
- 問題から予想した段階で、自分が予想した結果なら、どのような結果になるか予想して実験をおこなうなど、目的（問い）をはっきりと持って、活動を行わせる。

#### 下外城田小

- 家庭と連携し、生活の中にある理科を探す。例えば、野菜を育てることで、雄花や雌花、受粉ということを再確認することもできる。
- 理科の力をつけるポイントは、『あきらまで実験や観察をすること』『その結果を簡潔にまとめること』である。子どもが興味をもったことは、一緒に実験や観察をし、その結果を簡潔にまとめるということに挑戦させる。

(2) 中学校

①国語科 ※囲み線は、問題番号を示しています。

	強み	弱み
玉 城 中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の効果について、根拠を明確にして考えること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3一</span></li> <li>・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3二</span></li> <li>・読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4二</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文脈に即して漢字を正しく使うこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1一</span></li> <li>・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2四</span></li> <li>・読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4一</span></li> </ul>

学力の定着に向けた取組（一部）

- ・文章を読む際、文章構成やその効果を捉え、適切に内容を読み取る練習を引き続き行う。
- ・現在行っている小テストを継続し、タブレット端末等も随時活用しながら、基礎学力の定着を図る。
- ・自分の書いた文章は必ず推敲するよう指導を続ける。また、生徒同士の相互評価の機会を設定し、より良くするための具体的な改善策を伝え合ったり、良いと思った表現や文章構成を見つけあったりさせる。
- ・学んだことや自分で調べたこと・自分の考えなどを、文章やスライドなど様々な方法で表現し、発信する機会を設定する。

②数学科 ※囲み線は、問題番号を示しています。

	強み	弱み
玉 城 中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量を文字を用いた式で表すこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 (1)</span></li> <li>・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6 (3)</span></li> <li>・必ず起こる事柄の確率についての理解すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7 (1)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次関数 <math>y=ax+b</math> について、変化の割合を基に、<math>x</math>の増加量に対する<math>y</math>の増加量を求めること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 (1)</span></li> <li>・事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6 (1)</span></li> <li>・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7 (2)</span></li> </ul>

学力の定着に向けた取組

- ・朝学活の時間を利用して、問題練習を行い、基礎学力の定着を図る。
- ・最後まであきらめずに粘り強く問題に取り組むことを授業で継続的に指導していく。
- ・関数を苦手とする生徒が多いので、振り返り学習や補充問題に取り組む。
- ・ただ問題が解ければOKではなく、何が問われているのかを正しく問題から読み取れているか、授業の中で説明する活動を取り入れていく。
- ・基本的な問題から発展的な問題へ応用が利くように段階的に入試問題等に取り組んでいく。

### 3 児童生徒質問紙調査の結果

#### (1) 小学校

##### 【強み】

- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に9割以上が肯定的な回答をしている。引き続き、自己肯定感の涵養につながる指導を心がけていく。
- ・「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(習い事は除く)」という質問に「よくある」「ときどきある」と回答した児童の割合が非常に高かった。地域とのつながりがよく見える結果である。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が高かった。地域や社会のことを考えることができる児童が多いことは、うれしい姿である。
- ・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレット端末などのICT機器を、どの程度使用しましたか。」という質問に、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業で活用)」の割合が非常に高かった。各校でタブレット端末の研修が行われ、積極的な活用が進められている。今後は、効果的な活用方法の研修を進めていく。

##### 【弱み】

- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に、肯定的な回答がやや低かった。学校では、キャリアパスポートを使い、学期や行事ごとに目標を決め、振り返る活動を行っている。肯定的に捉えられていない児童に対して、近い将来の見通しを持ち、次につながる振り返る活動を行うことで、自信につながるように取組を進めていく。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問に、「全くしていない」と回答した児童の割合が高かった。プラスチャレンジの取組で、メディアの時間を減らした時間を、学習や読書をするように啓発している。特に、読書については、家庭にも働きかけていく必要がある。

## (2) 中学校

### 【強み】

- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に9割以上が肯定的な回答をしている。引き続き、自己肯定感の涵養につながる指導を心がけていく。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間 PC・タブレット端末などの ICT 機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）」という質問に「30分以上使っている」と回答している生徒の割合が高かった。家庭学習での活用が習慣づいてきている。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答している割合が高かった。地域や社会のことを考えることができる生徒が多いことは、うれしい姿である。

### 【弱み】

- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に、肯定的な回答をしている生徒の割合がやや低かった。キャリアパスポートを使い、学期や行事ごとに目標を決め、振り返る活動を行っている。肯定的に捉えられていない児童に対して、近い将来の見通しを持ち、次につながる振り返る活動を行うことで、自信につながるよう取り組を進めていく。
- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用している時間も含む）」という質問に「全くしていない」と回答した生徒の割合が高かった。自分の将来のために、自分で課題を見つけ、学習を進めることの大切さを伝えていく必要がある。